射水市名誉市民

滝田 実（たきた みのる）

Takita Minoru

生年月日～没年月日

大正元年12月15日 生
～ 平成12年12月9日 没

決定年月日

平成7年9月26日議決

主な経歴

全繊同盟会長
全日本労働組合会議議長
金融制度調査会委員

功 績

滝田実は、射水郡小杉町三ケ(現射水市)に父滝田豊蔵、母すての三男として生まれました。

昭和6年、富山県立工芸学校(現高岡工芸高等学校)を卒業後、日清紡績に入社。戦後すぐに労働運動に参加し、労働者の地位向上に尽くします。その後、持ち前のリーダーシップを買われ、昭和23年には35歳の若さで全国の繊維関係労働者の労働組合である全繊同盟の第3代会長に就任。以降、昭和46年まで23年間にわたり会長を務め、さらには繊維・金属・自動車・電力などの労働組合が中心となって結成された全日本労働総同盟の会長を歴任するなど、一貫して民主的な労働運動の発展に尽くすとともに、労資協調こそが企業を繁栄させ、労働者に利益をもたらすとの信念のもと、日本経済の復興にも大いに貢献しました。

とりわけ、滝田が直接指導した昭和29年の「近江絹糸争議」(※)は、繊維産業のみならず、中小企業における労資関係の近代化を促進した先駆的な事例として、我が国の労働運動史に残る大きな成果に位置付けられています。

国際関係においては、アジア諸国の労働運動発展に尽力、国際自由労連アジア地域組織会長として組織の育成に貢献するとともに、国際自由労連の副会長として、世界中の労働者の連帯協調を進め、世界の平和と経済の発展に大きな役割を果たしました。

一方、政府関係では、内閣の経済審議会、大蔵省の金融制度調査会をはじめ、労働省の中央労働委員会、文部省の中央教育審議会の委員など20以上にわたる公職を務め、政策の立案に寄与するだけでなく、石炭・電力・私鉄など各業種における大争議の調停、斡旋に当たりました。

昭和58年11月、これらの各分野での多岐にわたる活躍、功績により勲一等瑞宝章を受章されました。

「努力は道を拓く」常に労働者の立場に立ちながら様々な困難に立ち向かい、我が国の繁栄を願い続けた滝田の座右の銘です。

※ **近江絹糸争議** 昭和29年に起きた労働争議。劣悪な環境の寄宿舎生活、不法残業、信仰の強制、信書の侵犯など、常軌を逸した不当労働行為を是正するため、全国の労働組合がストライキを支援。経営者の退陣、新組合結成の承認など、22項目の要求貫徹に努めた結果、9月16日、会社側が全要求を受け入れ、106日ぶりに争議は終わった。